

## インドの結婚コーナー：カースト

カーストとは、結婚や食事に関する「タブー（きんき 禁忌）」など、げんかく 厳格なきせい 規制をもつ、インドのかいそうせい 階層制のつうしょう 通称です。カーストによる差別は法律で禁止されていますが、とくに地方では今でも社会に根づいています。

**ヴァルナ** カーストというと、インド古来のバラモン（しさい 司祭）、クシャトリア（おうこう 王侯・ぶし 武士）、ヴァイシャ（しょみん 庶民）、シュードラ（れいぞくみん 隷属民）の四姓と理解されることが多いですが、これは正確には「ヴァルナ（色）」と呼べられます。古代にヨーロッパ系のアーリア人がインドに侵入して、しはいしゃ 支配者となりました。肌の白いアーリア人と肌の色が濃い先住民とを区別するヴァルナ（色）という語が使われ、みぶん 「身分」「かいそう 階層」の意味が加わりました。こんけつ 混血が進み肌の色では区別できなくなったあとも、この語は依然として「階層」の意味に使われ続けたのです。

**ジャーティ** カーストとは、ポルトガル語で「いえがら 家柄」「けつぞく 血族」を意味するカスタに由来する語です。インドでは、カースト集団を「生まれ」を意味する「ジャーティ」という語で呼んでいます。ひとつの村は、ブラーマン（しさい ヒンドゥー教司祭）、地主、農民、きんぎんざいくし 金銀細工師、どうざいくし 銅細工師、かじや 鍛冶屋、どきしよくにん 土器職人、おりものしよくにん 織物職人などの しよくのうしゅうだん 職能集団、すなわち数十の「ジャーティ」で構成され、それらは、じょう 浄とふじょう 不浄（かんねん ケガレ）の観念に基づいて、上下のじょれつ 序列がつけられています。

**タブー** そのために、カーストの上位の者が下位の者と食事を共にすることは、うづ ケガレが移ると考えられ、タブーとされています。また、カーストが異なる者同士の結婚もタブーとされ、「カースト内婚」（同じジャーティ内で結婚する）が行われます。ただし、婚姻が許される同程度のジャーティもあり、その場合、女性はより上位の男性に嫁ぐのがよいとされ、それを「じょうしゅうこん ハイパーガミー（上昇婚）」と言います。その場合はとくに、たくさんの「じさんざい ダウリー（持参財）」を嫁側が用意し、よめがわ 婿側の家族にそうよ 贈与することが求められます。

## モノのやりとり ～島々をむすぶ交易

**贈り物がつながる関係** 人とのお付き合いにとって、「贈り物」は重要な意味を持ちます。たとえば、誕生日や記念日にはプレゼントを贈るなど、私たちが誰かと親しい関係を続けたいと願うとき、想いや願いをこめて物や言葉を贈り合います。ポイントは、貰いっぱなしではなく「お返し」をすること。たとえ見返りを期待されていなくても、感謝の気持ちを表したり、別の機会に返礼をすることで、人間関係が円滑に進むというわけです。こうした「贈り贈られる」ことを「**互酬性**」といいます。個人的な関係だけでなく、会社・団体、集落や共同体といった集団同士においても、繋がりを深め強めるためのやり取りがされています。集団間になると、贈り物の行為はより形式的、儀礼的になる傾向があります。

**島々をむすぶ交易** ニューギニアの島々では、島でとれる特産品を物々交換して生活に必要なものを手に入れます（交易）。島ごとに手に入る品が異なるため、近隣だけでなく広く遠洋に繰り出し離れた島々とも交易を行います。交換される物品は、魚、タロイモ、ココナッツなどの食料品、土器、樹皮布や網袋などの生活必需品、装飾品、動物の牙、貝、島の羽にいたるまでさまざまです。交易品は、数々の島を経由しながらさらに遠く離れた島へと運ばれていきます。カヌーでの危険な航海を経てやって来た人々は大いに歓迎され、宴会に招かれ、もてなされます。

交易へは訪問先の儀礼や祭りに招かれたとき、新造カヌーのお披露目などの際に出かけます。交易は大体の品目の目安が決まっていますが、贈り物の形をとるので、親しい仲だとあげすぎたりもします。交換の成果は儀礼や祭宴の場で評価されますが、質や量もさることながら、誰から誰に贈られたかという系譜も重要です。

島で生きる人々にとって、他の島との関係を良好に保つことはくらしと直結する問題です。そのため交易は、単なる経済活動だけではなく、友好関係を深め人々の結びつきを強める役割を持っているのです。